

ご自由にお持ち帰り下さい



天治人療、地域とともにある医療 ……1

通所介護「ココロッジ」開設 ……	2
家族会を開催しました ……	3
季節を感じるひととき・ムーチー作り ……	4
こころのサプリメント…世の光としての輝き ……	5
Medical Healthy Recipe…鯖と春キャベツ ……	5
老人保健施設における看護の役割 ……	6
北中城若松病院 理念・基本方針 ……	6





天治人療、 地域とともにある医療

北中城若松病院 病院長 竹田 真一

私の座右の銘として、大切にしている言葉があります。それが、古代中国医学に由来する「天治人療^{てんちじんりょう}」です。

「天の治するところ、人の療するところ」——人が本来持っている“治る力”は自然の働きによるものであり、私たち医療に関わる者は、その力が十分に発揮されるよう支える存在である、という考え方です。

医療というと、「病気を治すこと」が最も重要だと思われがちです。もちろん治療は欠かせませんが、それだけで人は元気になるわけではありません。安心できる説明、気持ちに寄り添う対応、生活環境への配慮など、日々の「ケア」が、治る力を引き出す大切な要素になります。

この考え方は、地域医療において特に重要だと感じています。

私たちの病院は、地域の皆さまが住み慣れた場所で、安心して暮らし続けられることを支える役割を担っています。外来や入院医療だけでなく、訪問診療や訪問看護、在宅療養の支援など、訪問系医療サービスにも力を入れているのは、そのためです。ご自宅での療養には、医療技

術だけでなく、生活に寄り添うケアが欠かせません。患者さんご本人だけでなく、ご家族の不安にも耳を傾け、地域全体で支えていく姿勢が求められます。医師、看護師、リハビリスタッフ、技師、事務、清掃、管理部門まで、すべての職員が「治る力を支えるチーム」です。一人ひとりの誠実な関わりが、地域の信頼につながっていきます。

「天治人療」という言葉を胸に、私たちはこれからも、地域に根ざし、人を大切にする医療とケアを続けてまいります。この地域にあって良かったと思っていただけの病院であり続けること——それが私たちの願いです。



地域の暮らしを支える新たな拠点 ～通所介護「ココロッジ」開設～

通所介護 主任 松田 拓也（理学療法士）



地域に支えられて 25 年

地域の皆様に支えられ、当法人のファミリークリニックがこの地で歩みを始めてから25年が経ちました。これまで地域の皆様と共に歩いてこられたことに、心より感謝申し上げます。このたび私たちは、新たな地域貢献の取り組みとして通所介護「ココロッジ」を開設いたしました。

暮らしに寄り添う支援へ

昨今のニーズの変化、利用者の暮らしや価値観がより多様になる中で、「生活そのもの」に寄り添う支援の必要性を強く感じるようになりました。そこで医療的な視点やこれまでの経験を活かしながら、機能訓練中心の通所リハビリから、より日常生活に寄り添う形として、通所介護という新たな取り組みを始めました。

自宅の暮らしを見据えた支援

ココロッジでは、リハビリ専門職が利用者様のご自宅を訪問し、実際の生活環境を確認したうえで支援を行います。玄関の段差や浴室、普段使っている椅子の高さなど、日常生活の場面を丁寧に確認し、「どこで困っているのか」「どんな動きが大変なのか」を具体的に把握します。その内容をもとに、施設内での活動や支援内容を組み立てています。私たちが大切にしているのは、体操や運動だけではなく、日常生活に近い「作業活動」を通じた支援です。洗濯物を干す・畳む、簡単な調理、園芸など、暮らしの中にある活動を取り入れることで、自然と身体を動かす機会をつくり、生活に役割や楽しみを取り戻していきます。また、活動意欲が低下している方にも無理なく参加していただけるよう、職員との関わりや小さな成功体験を大切にしながら、その人のペースに合わせた関わりを行っています。

もちろん、体力づくりや身体機能の維持・向上を目的とした一般的な機能訓練も行いながら、施設での取り組みが自宅での安心した生活につながる支援を目指しています。

地域の新しい居場所へ

医療・看護・介護が連携できる法人の強みを活かしながら、地域の皆様が安心して暮らし続けられるよう支援してまいります。ココロッジが地域の皆様にとって、安心して通える居場所となるようスタッフ一同取り組んでまいります。

家族会を開催しました

第3病棟 課長 内間 佐和子 (看護師)

第3病棟は重度の医療・ケアが必要となった方が長期に療養される病棟です。病気を機に家族のかたちが変わられる事も多く、現在も辛い気持ちを抱えて過ごされている方が多くいらっしゃいます。

以前は、面会時間や病棟の行事を通して家族同士が交流し、日頃の悩みや体験を共有・相談し支え合う機会がありました。コロナ禍を機にそういった機会を持つことが非常に少なくなりましたが、今回久しぶりに病棟行事である家族会を開催する事ができたので紹介したいと思います。

プログラムは3つ、「アロママッサージ」、「感染管理認定看護師による感染ミニ講座」、「家族同士の交流会」です。アロママッサージでは、好みのアロマオイルでマッサージを行い、双方リラックスされていたり、ニコニコ笑顔がみられたりと和やかな時間となりました。感染ミニ講座では、コロナ・インフルエンザについて、家族のためにできる感染予防についてお話をし、皆さん真剣な表情で話を聞かれていました。交流会では、思いを話したり、普段気になっていた事についてお話を伺い、それぞれの専門職からご説明したりと、時間があっという間に過ぎていきました。

会の終了後には、家族より感謝の言葉や、会がより良くなるための提案、今後も続けて欲しい等の嬉しいお言葉をいただきました。

今回療養者も参加する形で家族会を開催しましたが、触れ合ったり話したりする事で、療養されている方や家族、スタッフにとっても良い交流の場になる事を改めて感じました。今後も毎回内容を変えて、継続して開催していきたいです。





季節を感じるひととき・ 回復期リハビリ課だから 嚥下障害があっても楽しめる ムーチャー作り



回復期リハビリ課 主任 金城 良和 (理学療法士)

1月の割には少し暖かい日の1月26日、回復期リハビリテーション課では、沖縄の季節行事として「ムーチャー作り」を実施しました。リハビリスタッフと入院患者様が季節の移ろいを感じながら懐かしい記憶に触れ、取り組んだ活動です。作って食べることを楽しむだけではなく、デイサービス利用や施設退院の方への集団評価と活動遂行評価（集団での役割分担を図り連携して物を作っていくこと）も目的としました。

この活動を実現したのは回復期リハビリ課の作業療法士7名と言語聴覚士、管理栄養士の計9名です。洗練されたスタッフが入念に事前準備（企画）を行い、各々ワクワク感を抱きながら当日（運営）を迎えました。

ムーチャー作りの当日は患者様お一人お一人が役割を持ち、月桃の葉を扱う作業や包んだムーチャーを紐で結ぶ工程などに参加されました。慣れ親しんだ作業に自然と笑顔がみられ「昔はよく作っていたね」「懐かしいね」といった会話も広がり、リハビリ室は終始あたたかな雰囲気に包まれていました。

運営スタッフと患者様の手際の良さもあり、予定より早く仕上がる場面も見られ、活気あふれる時間となりました。蒸し上がったムーチャーはおやつの時間に提供し、ご面会中のご家族様にも一緒に味わっていただきました。回復期リハ課だからできる仕上がりとして、嚥下機能に配慮した軟質ムーチャーを作りました。結果、誤嚥やむせ込みはみられず「安全性」

と「食べる楽しみ」の両立を実現できました。さらに、月桃の香りや味覚刺激を用いた感覚入力は、嚥下障害を有する患者様にも五感を通じた季節体験を提供できたと思います。

患者様やご家族様から「味も食感も良かった」「各家庭のやり方やエピソードが聞けて面白かった」「皆で楽しく何かを製作するのは、やっぱりいいね」といった声が聞かれ、患者様同士でも思い出話に盛り上がり、心温まるひとときとなりました。

入院生活の中に季節の行事を取り入れることは、心身の活性化や生活意欲の向上につながる大切な機会となります。今回の活動でも多くの笑顔や前向きな表情が見られ、職員にとっても大きな喜びとなりました。今後も安全面に十分配慮しながら、皆さまに楽しみや安らぎを感じていただける活動を継続して行きたいと考えます。



アガペ会では、この活動状況をインスタグラムにアップしています。QRコードを貼り付けています。「百聞は一見にしかず」ということで是非！ご覧下さい。

世の光としての輝き

チャプレン室 金 知明

春になると街が色づき、イースター（復活祭）の飾りもあちこちで見られます。イースター（復活祭）は聖書にちなんだキリスト教のお祝いですが、その中にある「いのち」「復活」「輝き」は誰にとっても大切なものです。

しかし、いつも心の中まで春のように明るいとは限りません。うまくいかない日もあります。誰の役にも立てていない気がする日もあります。そんなとき、「自分は輝いていない」と思ってしまうかもしれません。それでも今日、息をしていること、誰かと同じ時間を生きていること。そのこと自体が、すでに小さな光なのかもしれません。

それは、眩しい光ではありません。遠くまで照らす強い光でもありません。しかし、そばにいる人の心を温め、足元を優しく照らす光です。

特別なことができない日も、元気が出ない日も、私たちのいのちは輝いています。その光が今日もどこかで、誰かの心をそっと支えています。

「あなたの光を人々の前で輝かせなさい」

（聖書 マタイ5章16節）



チャプレン室
「こころのサプリメント」

Medical Healthy Recipe



サワラ

鯖と春キャベツ



北中城若松病院 栄養課
桑江 美加（管理栄養士）

春は、体も心も軽やかに整えたい季節。そんな季節にぴったりなのが『鯖』と『春キャベツ』です。鯖は、良質なたんぱく質に加え、DPA・EHAといったオメガ3脂肪酸が豊富で、血液をサラサラに保ち、脳の働きをサポートしてくれます。

一方、葉がふんわりとやわらかい春キャベツはみずみずしく甘みがたっぷり。ビタミンCが豊富で、季節の変わり目の体調管理や美肌作りに効果的です。また、胃の粘膜を守る働きがあるとされるビタミンU（キャベジン）も含み、食べ過ぎや疲れがちな胃腸をやさしくサポートしてくれます。

鯖と春キャベツのやわらか煮～とろみあん～ <材料2人分>



- 鯖の切り身・・・2切れ
- 春キャベツ・・・2枚
- 玉ねぎ・・・1/2個
- 人参・・・少量（彩り）
- だし汁……………250ml
- 醤油……………小さじ1
- みりん小さじ1……………小さじ1
- 片栗粉・・・小さじ1（水小さじ2で溶く）

【作り方】

- ① 鯖は骨をとり、半分に切る。野菜は薄切りにする。
- ② 鍋にだし汁・調味料を入れ、玉ねぎ→人参→鯖の順に入れる。弱火で5～7分、ふつふつ程度で煮る。
- ③ キャベツを加えさらに2分ほど煮る。
- ④ 水溶き片栗粉で軽くとろみをつける。

老人保健施設における 看護の役割

診療看護課 課長 崎原 和枝（看護師）



老健では、多職種がそれぞれの専門性を生かし協働して利用者が安心して自立した生活を続けられるよう支援しています。定期的カンファレンスにおいて利用者の情報を共有し、必要なリハビリ、ケアの検討を行っています。

看護師の役割として、利用者が十分なケアが受けられるよう日々の健康状態の観察を行い異常の早期発見、予防に努め、必要時には医師と連携し医療的ケアを行っています。しかしながら、病院と違い老健においては、看護師の配置基準も少なく、医療設備も十分ではない中での医療の提供には厳しい場合もあり、また重症化し集中的な治療が必要となった際

には、本人やご家族への説明、同意のもと併設の若松病院や、近隣の協力病院と連携し入院治療を受けていただいております。退院後は、老健に戻り必要な治療を継続しつつ、リハビリを受け在宅復帰を目指します。

昨今、病院の在院日数が短縮され自宅に戻るには不安が残る中での退院となり、老健への入所を望まれる方も多く、若松苑でも同様に医療ニーズの高い入所者が増えています。個々のニーズに応じた対応が出来るよう体制を整え、新しいことでもどうしたら出来るかを考え多職種の協力も仰ぎながら頑張っています。



インスタグラム始めました！

若松病院や若松苑での日常、職員の生き方などをわかばちゃんと一緒に面白おかしく実況できていけたらと思います。



北中城若松病院 理念・基本方針

【理念】

老いていく人たちに共感をもち、この方達の身体と心と魂をも、共に支えていける病院

【基本方針】

「何事でも自分にしてもらいたい事は、他の人にもそのようにしなさい」（聖書 マタイ7章12節）

1. 必要かつ十分な医療をめざします
2. 個人の尊厳を尊重した医療サービスをめざします
3. 療養生活すべてがリハビリテーションととらえ、療養者の豊かな生活実現のために努力します
4. 社会資源を十分に活用し、御家族、地域社会と協力連携を取ることで家庭復帰やより適切な生活の場を考えます



アガペ会理念

アガペ(神の愛)に生かされ、アガペ(神の愛)に生きる

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい(聖書 ヨハネ福音書13章34節)

《理念の意味》 アガペとは「神様の愛」というギリシャ語です。私たち職員は、神様と周囲の多くの方々に愛されて生きてきた事を感じ、神様が愛されている目の前の療養者・利用者とそのご家族の皆さんの幸せ、職員とその家族の幸せ、地域社会の方々の幸せを目指して医療とケアを提供していきます。

北中城若松病院

〒901-2395 沖縄県北中城村字大城 311
☎/098-935-2277 FAX/098-935-2272

- ・地域包括ケア病棟
- ・回復期リハビリ病棟
- ・認知症治療病棟(休床)
- ・特殊疾患病棟
- ・認知症デイケア あしやぎ (認知症の方も含む)
- ・新オレンジサポート室 ☎/098-943-4085 FAX/098-943-4702

介護老人保健施設 若松苑

〒901-2314 沖縄県北中城村字大城 327
☎/098-935-5858 FAX/098-935-5807

- ・入所療養介護
- ・短期入所療養介護
- ・若松苑デイサービス
- ・若松苑訪問リハビリテーション

地域医療包括ケアセンター

複合型高齢者施設 ふれあいの里 若松

〒901-2311 沖縄県北中城村字喜舎場 360-1

3F サービス付高齢者住宅 アガペファミリー ☎/098-935-4165

2F グループホームわかまつ ☎/098-935-1021

1F ファミリークリニックきたなかぐすく
☎/098-935-5517 FAX/098-982-0708

..... 通所介護 ココロッジ ☎/098-982-0717

..... 訪問看護ステーション若松 ☎/098-935-5818

..... 訪問リハビリテーションきたなかぐすく ☎/098-923-3154

B1F ヘルパーステーション若松 ☎/098-935-5202

..... ケアプランステーション ゆい
☎/098-935-3066・098-935-5968

..... 地域医療包括ケアセンター事務所 ☎/098-935-3093
クリニック以外の事業所の FAX は 098-935-5855 (共通)

看護小規模多機能ホーム若松 きたなかぐすく

〒901-2316 沖縄県北中城村字安谷屋 1346 番地 1 (1F)
☎/098-982-0181 FAX/098-982-0183

グループホーム若松 ぎのわん

〒901-2201 沖縄県宜野湾市新城 1-20-6
☎/098-892-5104 FAX/098-892-5111

2026年5月 移転致します。
移転先：宜野湾市上原 1丁目5番14号

小規模多機能ホーム若松ぎのわん

〒901-2206 沖縄県宜野湾市愛知 2-3-2
☎/098-892-1673 FAX/098-943-1085

宜野湾市地域包括支援センター ふてんま

〒901-2202 沖縄県宜野湾市普天間 1-9-3
☎/098-943-4165 FAX/098-943-4067

老人デイサービスセンターしおさい

〒901-2321 沖縄県北中城村字美崎 262 ☎/098-935-5190

<https://www.agape-wakamatsu.or.jp>

※今号で使用している写真はご本人の同意を得て掲載しております

